

大地の恵みに包まれて

お香を新しい形で表現しているのが、東京・青山と京都にある店「リスン」だ。世界中から取り寄せた様々な香料を配合したカラフルな線香を「インセンス」と名付けて約150種類並べる。コンシエルジュが顧客それぞれに合うものを選んでくれると聞き、京都の店で「爽やかなかんきつ系の香り」を希望してみた。すると「BELLS」というインセンスを取り出し、専用ホルダーで炊いてくれた。目を閉じると、瀬戸内のレモン畑にいるような、やさしい海風とレモンの香りが漂った。

20年度のリスンの売上高は前年度比で8%増え、25本入り「TRIAL」G L「SET」は4.5倍に達した。訪日時に購入した外国人のリピーターも多く、米国、オーストラリア、香港などからの注文も多い。リスンを展開する松栄堂の畑正高社長は「既成概念にとらわれず、1本ずつ選べるラインアップが好評だ。SNS（交流サイト）の情報によって知っていたただく機会が増えた」と説明する。

大沢さんのコレクションは世界的に評価が高い。18年、香水愛好家のバイブル「PERFUMES THE GUIDE（世界香水ガイド）」に日本の独立系ブランドとして初めて掲載され、「サトリ」「ハナヒラク」など5種類が4つ星（最高は五つ星に認定された。「匂いの帝王」と呼ばれるルカ・トゥリンらに著したこのガイドは、厳しい評価で知られている。しかし、「サクラ」は「ミントとみずみずしいサクラノボの美しき透明感のあるアコードを実現。欧州の調香師たちはよく反省すべきだ」と記された。「オリベ（現ひょうげ）」は「心地よく落ち着いた緑茶の香り。おみ

ごとなどと称賛された。六本木にあるアトリエショップを訪ねると、風通しの良いオフィスに約500種類の香料の小瓶が整然と並んでいた。和の香水を生み出す秘訣を聞く、まずは「和食とフランス料理の違いと同じ。食材は同じでも『秘伝のタレ』が違います」と大沢さん。秘伝のタレについては企業秘密としながらも「お香の原料も入っている。私自身はそれを『源氏香ベース』と名付けている」と明かしてくれた。

次は1銘柄の香水に使う香料の数を絞り込んでいる点だ。西洋の香水の場合、大量生産品なら合成香料を中心に100種類を超えるケースが少なくない。大沢さんの和の香水は天然香料を中心に40〜50種類という。そして最も大事なのが香料の配合を決める感性だ。大沢さんは長く嗜んだ茶道や華道、日本舞踊5年ほど経験を積んだ香道がその源になっている。子供の頃、植物観察が好きで、図鑑を片手に駆け回った経験も生きている。

その大沢さんが最近感じているのが世界的なトレンドの変化だ。西洋の香水は本来自分を演出するファッションであり、異性にアピールするものだった。だが、コロナ禍で自分のためのもものになりつつあるという。「自分が心地よいと思えば、自分らしくいられる香水作りを目指したい」と力を込める。

香りの分野に企業もアプローチしている。香りを科学的に検証し、新しい価値を追求しているのがロート製薬の香りの専門組織「ベレアラボ（東京・港）だ。代表の星垂香里さんは「嗅覚は食べ物新鮮かどうかを判断し、味覚に影響する大事な感覚だが、まだ十分に解明されていない」と指摘する。

日本フットボールリーグ加盟のサッカーチーム、いわきFCと取り組んだのは、香りが選手たちのパフォーマンスにどう影響するかの検証だ。19年シーズン（当時は東北社会人リーグ1部）のうち8試合を対象に、ロッカールームなどで「グリーン」の香りを散布した4試合と、散布しない4試合とを比較した。選手には「活気がみなぎる」「不安だ」など20項目のアンケートを試合前後に実施し、その回答をデータ化したところ、精神的な「緊張感・不安感」の数値は大幅に減り、身体的な「疲労感」も軽減された。

ではなぜ、香りが不安や疲れを和らげるのか。ヒントの一つがグリーンの香りだ。植物成分を抽出し開発した香りという。実際に嗅いでみると、草原で犬の字になってあおむけに寝ているようなイメージが広がった。選手たちはこのような感覚で不安や緊張をほぐしていたのだ。「嗅覚は五感の中で一つ、本能や情動をつかさどる脳の脳縁系に直結している。つまり最も野性に近い感覚です」と星代表は話す。

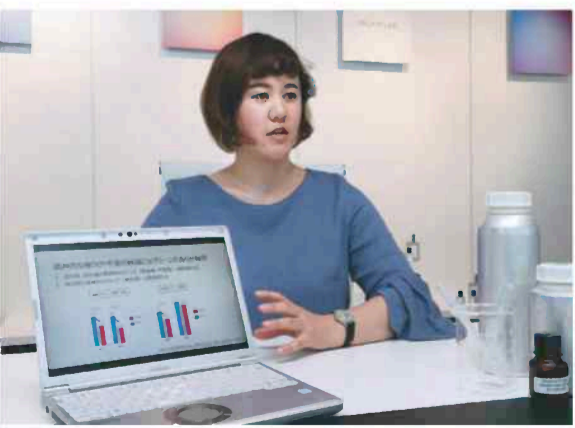
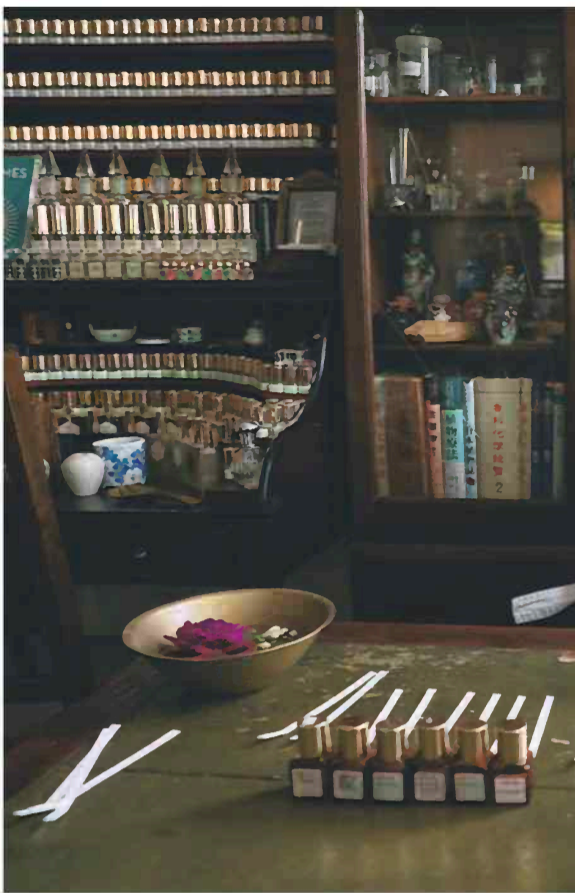
いまでも多くの人が新型コロナウイルス感染を恐れ、不安と緊張の中で生きている。自宅に戻り、好みの香りに包まれば、そこは自分だけの巣、自分を丸ごと受け入れてくれるすみかとなる。香木や香料はもともと大地で育まれた木や草花や果実だ。香りを聞くことで得られる自然との一体感が、心に癒やしをもたらしてくれるのかもしれない。



香りと色が異なるインセンスを約150種類用意。専用のホルダーに固定すれば、約15分間香りを楽しめる

松浦弘昌、大岡敦、竹柳章撮影

濱部貴司



40〜50種類の香料を微妙に調合。大沢さんの感性のひらめきによって「和の香水」が生み出される

高級雑貨店風の京都市にあるリスン店内。コンシエルジュが実際にインセンスをたいてくれる。1本から購入できる

香りの研究を商品開発に生かしたいというベレアラボの星代表

許諾番号30082881 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。